

Appointment and Web-based  
Communication Division

連携室  
だより

2025年11月

秋号

—Vol.60—



# 院長就任半年を経過して



旭川赤十字病院  
院長 真名瀬 博人

春の訪れとともに病院長に就任してから、早くも半年が経過いたしました。この間、地域の皆さま、連携医療機関の先生方、そして当院スタッフの温かいご支援に支えられ、日々の業務に取り組むことができましたこと、心より感謝申し上げます。

病院経営の舵取りという重責を担う中で、医療を取り巻く環境の厳しさを改めて実感しております。診療材料費や給与費の高騰、急速に進む高齢化や人口減少、医療従事者の働き方改革、地域医療構想など、課題は山積しています。しかしながら、これらの変化は、医療の質を高め、持続可能な体制を築くための転機でもあると捉えています。

当院ではこの半年間、以下のような変革や取り組みを進めてまいりました。

心臓血管外科が旭川医科大学から新たなチームを迎えて診療体制の交代がありました。診療部長の筒井先生は比較的若年ではありますが、教授折り紙つきの技術と精神力の持ち主であります。現在まで新チームは順調に稼働し安定した治療成績を上げています。患者さんのご紹介・ご相談など今後も皆さんとの密な連携をお願いいたします。

本年9月末に循環器内科部長の退職がありました。皆様にはご心配とご迷惑をおかけして申し訳ありません。現在は札幌医大からの出張や関連病院からのサポートを受けて診療体制維持に努めております。来春には医師の補充見込みになっております。しばしご心配とご迷惑をおかけしますが変わらぬ医療連携をお願い申し上げます。

救命救急センター長がこの10月、小林巖副院長から川田大輔救急科部長に交代しました。小林巖副院長が来年定年を迎えることからセンター長を早めに交代して引継ぎをスムーズに行うのが目的です。当院救命救急センターは年間約5千台の救急車を受け入れ、ウオークインで受診される患者さんも年間

4千人を超えています。また、道北ドクターヘリは道北地方の救急患者さんを多く搬送し救命治療に当たっていますが、フライトドクターを含めた救急科常勤医師が不足しております。現在は旭川医科大学などからの派遣をお願いしておりますが、センター長交代を機に旭川医科大学救急部との連携を更に強化し、当院の救急救命センターを強固な体制に改革してまいります。救急患者連携搬送など今後も積極的に行っていきますので密接な医療連携を今後ともよろしくお願いいたします。

今年開かれた大阪・関西万博の赤十字パビリオンへ当院から職員を派遣してまいりました。私自身は万博へ行けませんでした。赤十字パビリオンで放映された映像を視聴する機会が有りました。世界の人道危機と支援の現状を訴える映像は胸を強く打つものがありました。医療連携の集いなどでこの映像を皆さんにお見せ出来ないか日赤本社で検討中であります。みなさんに良いお知らせが出来ることを期待しております。

2026年には診療報酬改定が実施されます。新首相が『診療報酬・介護報酬の改定時期を待たずに、病院や介護施設の経営改善、働いている方々の処遇改善につながる補助金を前倒しで措置する』と述べていましたが、連立政権に入った日本維新の会は医療給付圧縮を掲げていて雲行きはかなり怪しい状態です。

厳しい社会・医療情勢ではありますが、旭川赤十字病院はこれからも、地域の医療を、地域の人々を守るため医療機関の皆さんと協力して高度で質の高い医療を提供して参ります。そして、道北地区の人々が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献して参ります。

今後とも旭川赤十字病院をよろしくお願いいたします。



# 旭川赤十字病院救命救急センター長就任のご挨拶



旭川赤十字病院  
救命救急センター長 川田 大輔

このたび、旭川赤十字病院救命救急センター長を拝命いたしました、川田大輔と申します。旭川市に生まれ、旭川市で育った私にとって、ふるさとであるこの地の医療に携われることは、大きな喜びであると同時に、身の引き締まる思いであります。

救命救急センターは、急を要する患者さんに最初に手を差し伸べる「最後の砦」とであると同時に、地域医療全体を支える「要」となる存在です。重症・多発外傷や重篤な内科疾患、災害・感染症など、多様な救急要請に迅速かつ確実に対応できる体制を今後も維持してまいります。そして、旭川市および道北地域全体の皆さまが、安心して暮らせる医療環境を守るため、日々の診療と体制整備に全力を尽くす所存です。

救急医療は、当院のみで完結するものではありません。地域の医療機関、診療所、消防・救急隊、行政機関、介護・福祉施設など、さまざまな関係機関との密接な連携があってこそ、患者さんに最適な医療を提供することができます。旭川赤十字病院

は、これまでも「断らない救急」を理念に掲げてまいりましたが、今後はさらに、地域全体で救急医療を支える「連携の強化」と「情報の共有」を推進していきたいと考えております。

また、救命救急センターの役割のひとつとして、若手医師・看護師の育成も重要です。地域医療の将来を担う人材が、旭川で学び、経験を積み、この地域に根ざして働き続けられるような教育環境を整えることにも力を注いでまいります。私自身、旭川で育った医師として、この地で次世代を育てる責務を強く感じております。

今後とも、地域の医療機関の皆さまには、これまでと変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。そして、旭川・道北の救急医療の発展に向け、互いに協力し合える関係をより一層深めていければ幸いです。

地域の皆さまの「いのち」と「暮らし」を守るため、職員一同、誠心誠意努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 日本赤十字社 創立150周年プロジェクト

日本赤十字社は、2027年5月に創立150周年を迎えます。この節目に向けて、現在、全国規模での記念事業(大阪万博への出展)やキャンペーン、地域を巻き込んだプロジェクトが計画されており、「人道」の理念のさらなる発信と未来への継承に向けた準備が進められています。

1877年の博愛社設立から150年、西南戦争での負傷者救護に始まり、災害、感染症など、時代ごとの困難に立ち向かいながら、日本赤十字社は常に人びとのいのちと健康を守る活動を続けてきました。その長い歴史と歩みに深く敬意を表するとともに、当院も、これまでの連携医療機関との協働や信頼関係を礎に、150周年プロジェクトに積極的に関わってまいりたいと考えています。

当院では、地域の皆さまと共に行う献血啓発イベントや応急手当講習会の開催、関係機関との連携による防災訓練への参加など、日常の医療活動に加え、災害医療や地域貢献にも力を入れてまいりました。新型コロナウイルス感染症への対応においても、行政機関との連携のもと、地域の安全確保に取り組みました。

150周年という大きな節目に際し、こうした日々の取り組みをさらに発展させ、赤十字の理念を広く伝えることが、当院の重要な役割であると考えております。

今後予定されている各種プロジェクトへの参画を通じて、「いのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の精神を、次の世代へとしっかりとつないでいきたいと思いをします。

日本赤十字社が、  
人道支援の団体として活動をはじめて 150 年。  
人間のいのちと健康、尊厳を守るために、  
これからも皆さまとともに活動してまいります。



# ドライビングシミュレータについて

リハビリテーション技師長 澤口 正廣 作業療法士 平 典起

現在リハビリテーション科では、脳血管疾患等の患者さんに対する自動車運転評価に、ドライビングシミュレータ(DS)を活用しています。

道路交通法66条において、「何人も～、過労、病気、薬物の影響その他理由により、正常な運転が出来ない恐れがある状態で車両等を運転してはならない。」と規定されています。また警察庁の通達(法令の運用指針などを示したガイドラインのようなもの)には脳卒中について明記されており、発症後の自動車運転再開には公安委員会(旭川運転免許試験場など)の許可を得ることが強く推奨されます。特に、脳卒中や脳挫傷などの脳血管疾患は運動/感覚麻痺や視野障害、高次脳機能障害など運転に影響を及ぼす多彩な症状を呈する可能性があり、運転再開には慎重な判断が求められます。

DSでは、疑似的に運転操作体験ができ、またそれに対する反応を客観的に測定することが出来る機器です。当院ではHonda社製の「セーフティナビ」を採用していますが、こちらは通常の検査では評価しきれない軽度の感覚麻痺

や半側空間無視などの営為協も検知することができ、自動車運転の評価には特に有用とされています。

当院のDSは2022年度に導入されましたが、当初は活用方法が統一かされておらず、使用回数も伸び悩んでいました。2023年度に自動車運転評価やDSの使用方法について統一化することを目的に、作業療法部門内に運転支援チームを立ち上げて以降、徐々にDSの使用回数は増加傾向にあります。2024年度は延べ200名以上の方に対しDSを活用した自動車運転評価を実施しました。

また、DSを活用した自動車運転評価は、自由診療(保険適用外、全額自己負担)にて外来でも実施しています。当院入院中に自動車運転評価を受けた方を中心に公安委員会から診断書の提出を求められている方を対象として、毎週木曜日に2時間程度かけて評価を実施しています。

今後は、脳血管疾患のみならず他の疾患の方に対してもDSを有効活用できるよう、他部門/他部署との連携を進めていきたいと考えています。







# 歯科口腔外科よりお知らせ

抜歯限定でTEL予約を開始しました

2025年10月より、予約専用ダイヤルによる外来予約を開始いたしました。  
ぜひご活用ください。

TEL予約が可能なのは 下記3つすべて を満たす患者さんです

- ☐ 親知らずの抜歯を希望している
- ☐ 現在、痛みなどの症状はない
- ☐ 抜歯手術まで、1ヶ月以上待てる

お電話の前に患者さんへ

紹介状と専用の予約用紙をお渡しください。

※予約専用ダイヤルは紹介状がお手元にある患者さんの  
初回予約専用です。

※予約用紙は当院HPよりダウンロード可能です。



日頃より患者様を紹介いただきありがとうございます。  
当科は、常勤医師4名体制で外来診療を行っております。  
外来診療体制に関してお知らせがございます。

- 初診担当医は日替りとなっているため、希望医師に添えない場合がございます。  
(月曜日 ~ 金曜日)
- 木曜日・金曜日は午前中より手術を行う関係で、初診患者の外来での待ち時間が  
他の曜日に比べて長くなります。
- 抜歯希望の場合、受診当日の抜歯は原則行っておりません。

当科の診療体制につきまして、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

歯科・口腔外科 診療部長 岡田 益彦

## 旭川赤十字病院 公式SNSの紹介

2024年7月より当院では、地域の皆さまおよび連携医療機関の先生方との情報共有と交流をさらに深めることを目的として、公式Instagram（インスタグラム）を開設いたしました。

近年、SNSは単なる情報発信の手段にとどまらず、医療機関と地域社会、そして連携医療機関との「新たなつながりの場」として重要性が増してきています。

これまでの連携室だよりや院内広報誌（ななかまど）に加えて、SNSを通じて、より多くの方々に当院の取り組みや想いを知っていただきたいと考え、以下のような情報を定期的に発信してまいります。

本アカウントは、患者さまをはじめ、連携医療

機関の皆さまにとっても、当院の最新情報をリアルタイムでご確認いただけるツールとして活用していただけます。診療・紹介に関するご参考はもちろん、地域の医療連携の一助として、ぜひご活用ください。

フォロー・ご閲覧いただくことで、当院の医療や取り組みをより身近に感じていただけましたら幸いです。

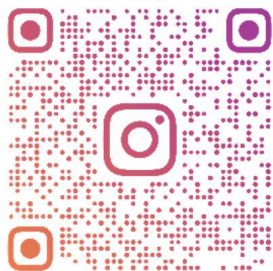
今後も、地域の医療を支える一員として、連携の強化と信頼される医療提供体制の構築に努めてまいります。

引き続きのご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 発信予定の主な内容

- 各診療科の特色や医師・スタッフの紹介
- 医療機器・設備、検査体制のご紹介
- 地域連携に関する取り組み・連携窓口からのご案内
- 健康・予防・生活習慣に関する情報提供 院内の様子（イベント、季節の飾りつけ、感染対策など）
- 採用情報や病院の日常の一コマ など

Instagram



RED\_CROSS\_ASAHIKAWA



X



<Instagram>

[https://www.instagram.com/red\\_cross\\_asahikawa/](https://www.instagram.com/red_cross_asahikawa/)

<X>

[https://x.com/asahikawa\\_rch](https://x.com/asahikawa_rch)

## 人事消息

### 新任医師

令和7年10月1日付	令和7年10月1日付	令和7年10月1日付
耳鼻咽喉科 医師 はんが い まさと 半谷 将人	心臓血管外科 医師 まるおか じゅん 丸岡 純	形成外科 医師 はやし みき 林 美貴

### 退職者

令和7年8月31日	令和7年9月30日	令和7年9月30日	令和7年9月30日	令和7年9月30日
臨床研修医 伊藤 貴理	循環器内科 部長 飛澤 利之	耳鼻咽喉科 医師 八柳 周	心臓血管外科 医師 清水 要	糖尿病・内分泌内科 医師 土井田 貴美子

## 《第24回 旭川赤十字病院 医療連携の集い》

- 日時／2026年2月10日(火) 18時30分から
- 会場／旭川アートホテル 3階 ボールルーム

講演内容は決まり次第、改めてご案内させていただきます。

### 理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

### 基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心に安全で安心できる診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関、介護・福祉施設との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

### 私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンド  
オピニオンを受ける権利

### 旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

1. 私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
2. 私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
3. 私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
4. 私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
5. 私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

発行

## 旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email [renkei@asahikawa.jrc.or.jp](mailto:renkei@asahikawa.jrc.or.jp)



# 自動車運転のための 運転能力評価（自由診療・予約制）のご案内

当院では、自動車運転再開のため、公安委員会への診断書の提出が必要な方などに対し、運転能力評価と診断書の作成を自由診療（全額自己負担）にて行っております。

運転免許の更新・再取得等において、医師による診断書が必要な方や、ご自身の運転能力について医学的な評価を希望される方は、下記をご確認の上、お申込みください。

## 1. 対象となる方

- ・ 脳血管障害（脳卒中など）、頭部外傷などの既往があり、運転再開や継続に際して公安委員会への診断書の提出が必要な方
- ・ 認知症の疑いなどで、公安委員会から診断書の提出を求められている方

## 2. 評価・診断書作成までの流れ

- ① 公安委員会の診断書を事前に準備してください。（※受診時に持参してください）
- ② 来院していただき、受付を行い、診療科外来へお越しください。（原則木曜日8時50分まで）  
検査日の日程を調整し、同意書への署名をいただきます。
- ③ 予約日に来院、リハビリ室にて神経心理学的検査とドライビングシミュレーター検査、およびリハビリ科医師の診察を受けて頂きます。（所要時間120分程度）
- ④ 担当医が診断書を作成します。
- ⑤ 診断書を公安委員会に提出し、運転可否判断を受けてください。

## 3. 利用料金

※本サービスは自由診療（保険適用外）となります。全額自己負担となりますのでご了承ください。

**利用料金 15,400円**

（内訳：評価料11,000円 + 診断書発行手数料3,000円 + 消費税）

## 4. 注意事項

- ・ 最終の判断は公安委員会が行います。当院の評価結果が自動車運転の可否を最終的に決定するものではありません。
- ・ 公安委員会の判断が出るまでは、いかなる場合も自動車運転はお控えください。
- ・ 診断書の郵送を希望する場合（自宅、公安委員会等）は、別途郵送代がかかります。



お気軽にお問い合わせください！



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

お問い合わせ先

旭川赤十字病院 リハビリテーション科  
TEL:0166-22-8111(内線2180)